



人形浄瑠璃 狂言 in さばえ

古典の日記念

令和8年11月23日(月・祝)

開演 13時30分～（開場 13時）

◇会　場◇　鯖江市文化センター 大ホール

◇入場料◇　無料(要整理券) ※全席自由

◇定　員◇　300人

◇整理券配布場所◇
まなべの館、市役所、文化センター、立待公民館、河和田公民館

鯖江市の伝統芸能団体「鯖江人形浄瑠璃“近松座”」、
「かわだ狂言クラブ」による公演会を開催します。

主催　鯖江市・鯖江市教育委員会

共催　NPO法人かわだ夢グリーン・鯖江人形浄瑠璃「近松座」

13:30～ 開会

13:35 ～ 14:15
人形浄瑠璃「伊達娘恋緋鹿子～火の見櫓の段」/ 鯖江人形浄瑠璃「近松座」

吉祥院の寺小姓吉三郎は、主人左門之助とともに紛失した剣を探していました。もし今宵見つからなければ、明六つの鐘を合図に切腹しなければなりません。武兵衛は借金の返済の代わりに一人娘のお七を嫁にと望みますが、お七は寺小姓の吉三郎に思いを寄せておりました。今宵に迫った吉三郎の切腹を何とか救いたいお七は、下女のお杉から、さがしている剣を武兵衛が持っていることを聞き、吉三郎に知らせようとします。しかし暮九つの鐘を合図に町の木戸は閉まってしまい、どうすることもできません。悩み抜いたお七はふっと木戸にある火の見櫓を見上げます。火事の時に火の見櫓の太鼓を打つと木戸が開くことを知ったお七は雪の降る中、火の見櫓に駆け上がり半鐘を打ち鳴らします。みだりに太鼓を打つと火刑(ひあぶりのけい)になることも知りながら、木戸の開いた雪の町を吉三郎のもとへとかけていくのです。

【出演】 鯖江人形浄瑠璃「近松座」 座長 大橋 國利

人形遣い：松本 実夕　牧野 裕美　北 静子　瀧谷 えみ子(手元)　太 夫： 南 和彦　太 鼓 ： 山内 美代子

三 味 線 ：栗山 祐子　松本 陽菜　野坂 美穂　半 鐘： 小山 藤枝　下 駄 音： 野坂 博史

人形浄瑠璃「寿式三番叟」/ たちまち子ども文楽

五穀豊穣、子孫繁栄を願いながら力強い足拍子で賑やかに舞います。
はげしい舞に息せき切って、励ましあったり、ちゃっかりひと休みしたりして場内の笑いを誘います。
正月や顔見世などのおめでたい場で上演されます。



【出演】 人形遣い：たちまち子ども文楽 ＊
三味線･太夫：鯖江人形浄瑠璃「近松座」
＊立待地区の子どもたち12名が、月2回、近松座の若い座員の指導を受けながら立待公民館で練習を行っています。今年度、中学生も一緒に活動しています。

14:15～ 休憩

14:20～
小舞「泰山府君」/ かわだ狂言クラブ

信西の三男桜町中納言が、春の花盛りを名残惜しんでいる。そこへ一人の天女が降りてきて、花の枝を一枝手折って空のかなたに去っていってしまいます。大切な花を持ち去られたのを知った花守は大騒ぎ･･･。冥官･泰山府君が現れ花を手折った天女を呼び出し＜天女の舞＞を舞わせます。そして天女は、持ち去った桜を元に戻して去っていきます。泰山府君も、通力をもって、7日間しかない桜の花の盛りを21日間に延ばしてあげるという中国由来の神で、日本では陰陽道とも結びついて語られてきました。

【出演】 舞 ： 齋藤 由紀　　謡 ： 齋藤 信富　松浦 華枝

狂言「千鳥」河和田版創作「うるし桶」/ かわだ狂言クラブ

創作狂言「うるし桶(狂言「千鳥」を、鯖江版に、増澤善和氏が書下ろした)」
主人から、うるしの買い物を申し付けられた太郎冠者、今度、漆を持って帰ったら塗りの仕事をさせるからと言われ、出かけるが、うるし屋の亭主に、これまでの、うるし代を清算しろといわれる。囃物が好きな漆屋の隙を見て、うるし桶を持って行きたい太郎冠者は、舟津大社の鳩で囃したり、山車を囃してうるし桶を持ち去ろうとするが、制止される。さらに太郎冠者は、流鏑馬を再現して見せると言い、杖竹にまたがって馬に乗る真似をしながら、あたりを走り回り、うるし桶を持ち上げると、そのまま走って逃げる。あわてたうるし屋の亭主が追い込む。

【出演】 根本 泰佑　根本 るみ子　木村 愛子

14:50～ 狂言ワークショップ / かわだ狂言クラブ

狂言「塗師」の説明と会場の皆さんに「基本的な所作」と「笑い」を楽しんでいただきます。

【問い合わせ】 鯖江市教育委員会 文化課
鯖江市 まなべの館
〒916-0024　福井県鯖江市長泉寺町1-9-20
TEL / 0778-53-2257　FAX / 0778-54-7123
E-mail / SC-Bunka@city.sabae.lg.jp